

令和3年度事業報告

自 令和3年4月 1日
至 令和4年3月31日

1 事業概要

令和に入って3年目となった昨年も、市民生活や畜産業界において感染症に大きく影響を受けた年となりました。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）については、緊急事態宣言等の制限措置が度々繰り返され、経済活動が大きく停滞しました。

このような中、養鶏業界では、一昨年に引き続き高病原性鳥インフルエンザ発生があり県内、養鶏農家は被害を受けることとなりました。

肉牛においては、COVID-19の影響対策として、国等による生産者への出荷奨励金の交付や牛肉の保管調整と消費拡大への支援など様々な対策が実施され、影響は小さく抑えられましたが、昨年からの飼料価格の高騰により経営に影響が出ています。

酪農においては、国等の増産対策により農家の大規模化が進み、生産量は減少しなかったものの、COVID-19の影響で生乳消費が落ち込み、生乳廃棄の危機も数度晒され、酪農経営は依然として厳しい状況となっています。

養豚業界では、県内の豚熱ワクチンの接種は全頭に実施されていますが、全国的には全頭接種した農場でも豚熱の発生があり、ワクチンブレイクによる豚熱の発生は、家畜衛生経費の増大とともに農場経営の課題となっています。

当協会では、こうした中、コロナ対策に機動的に対応しながら、肉牛生産者への奨励金の交付や県産食肉の消費拡大への支援、農場での衛生管理向上のための防護柵の整備やH A C C P推進を通じた飼養衛生管理基準の普及、牛乳消費拡大に係る啓発活動など様々な対策を実施しました。

また、「畜産フェア」などの販売促進活動の殆どのイベントは、COVID-19の影響から殆ど中止としましたが、WEB上で畜産物のプレゼントキャンペーンを実施するなどで代替してPR活動を展開しました。

さらに、「牛マルキン」などの各種制度の事務事業や施策の要請活動や10団体の事務局事務なども適切に執行しました。

2 会員及び役職員の構成（令和4年3月31日現在）

(1) 会員

区分	計
県域畜産団体	20
市町村	51
自衛防疫組織	47
農協・会社等	27
生産者組合等	12
賛助会員	5
合計	162

(2) 役員

(単位：名)

会長	副会長	専務理事	理事	監事	計
1	4	1	9	4	19

(3) 職員

(職種別)

(単位：名)

区分	総括畜産 コンサルタント	畜産 コンサルタント	臨時職員	合計
人数	5	4	6	15

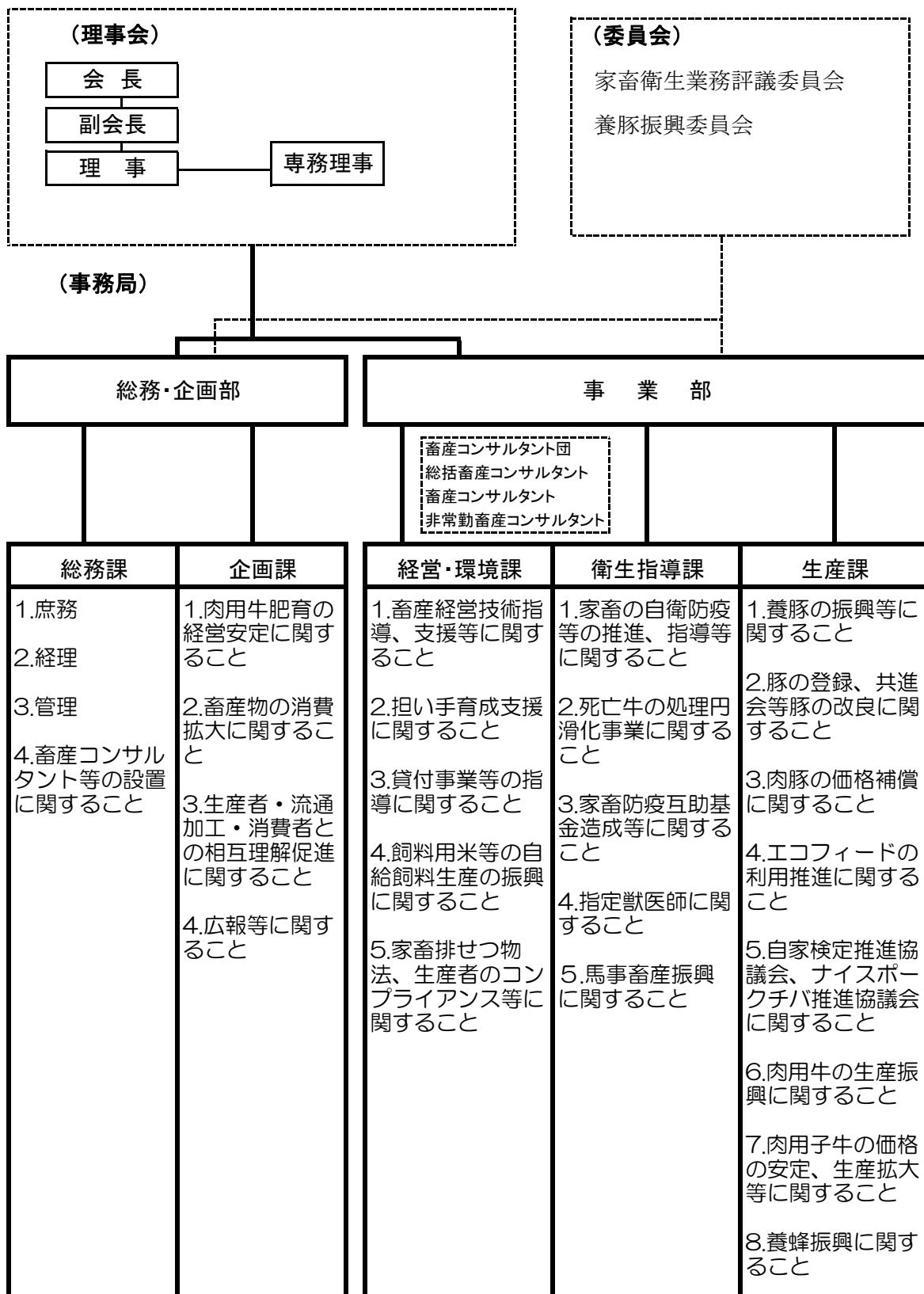
(所属別)

(単位：名)

区分	職員	嘱託及び 臨時職員	合計
専務理事	1	—	1
総務・企画部	3	4	7
事業部	2	5	7
合計	6	9	15

公益社団法人千葉県畜産協会 組織図

令和4年4月1日



3 会議の開催

(1) 監事会

期日	場所	内容
令和3年6月2日	K & T 千葉ビル	令和2年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について

(2) 理事会

期日	場所	内容
令和3年6月10日	書面決議	1) 令和2年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 令和3年度会費の額及び徴収方法について 3) 役員の報酬額について 4) 令和3年度定時総会について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
令和3年6月28日	ホテルラサ 菜の花	報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
令和3年9月17日	書面決議	1) 役員の補欠選任について 2) 令和3年度臨時総会について
令和3年12月23日	書面決議	1) 肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン制度）に係る次期業務対象年間への移行について
令和4年3月14日	ホテルラサ 菜の花	1) 令和4年度事業計画及び収支予算について 2) 副会長の選定について 3) 肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン制度）に係る次期業務対象年間への移行について 4) 公益社団法人千葉県畜産協会養豚振興委員会運営規程の一部改正について 5) 会員の入会について 報告事項 ア 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について イ 肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン制度）に係る次期業務対象年間への移行について ウ 千葉県肉用牛肥育経営安定対策補完事業について エ 第12回全国和牛能力共進会への

		参加について オ 会員の退会について カ 千葉県肉用牛損害賠償請求生産者 会の解散について
--	--	--

(3) 総 会

期 日	場 所	内 容
令和3年6月28日	ホテルフジタ 菜の花	報告事項 1 令和2年度事業報告について 2 令和3年度事業計画並びに収支予算 について 議案 1) 令和2年度貸借対照表、損益計算書 及び財産目録について 2) 令和3年度会費の額及び徴収方法に ついて 3) 役員の報酬額について
令和3年10月8日	K&T千葉ビル	議案 1) 役員の補欠選任について

(4) 家畜衛生業務評議委員会

令和3年6月16日	書面決議	1) 令和2年度家畜衛生業務関係事業の 実績について 2) 令和3年度家畜衛生業務関係事業の 計画について 3) 家畜衛生業務に係る指定獣医師の諮 問について
令和4年2月25日	書面決議	1) 令和4年度予防接種負担金額の決定 について

(5) 養豚振興委員会

令和3年12月2日	旭市千潟公民館	1) 養豚振興委員会規程の一部改正につ いて 2) 種豚改良対策基金及び助成につ いて 3) 千葉県肉豚共進会につ いて 4) 系統造成豚L4につ いて 5) 衛生対策につ いて 6) 養豚に関する補助事業につ いて
-----------	---------	---

(6) 定例会議

原則として、毎月末に常勤役職員による定例会議を開催し、翌月以降の事業の計画的な推進と進捗状況の確認及び業務の円滑化・効率化に努めた。

I 畜産経営を支援する事業

1 地域畜産支援指導等体制強化事業（地方競馬全国協会）**公益**

地方競馬全国協会からの補助金を得て、①畜産経営の支援体制の強化を図る事業、②地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資するための事業、③馬事普及啓発の推進体制の強化を図る事業に係る3事業を実施した。

2 畜産コンサルタント等設置事業（県）**公益**

畜産経営の経営改善を図るために、組織活動支援を含めた経営改善指導を実施した。

3 会報誌編集発行事業（協会単独）**その他**

畜産の生産から流通・消費に関する最新情報を、協会の情報誌「畜産ネットワークちば」を3回（第51～53号・1,500部）発行し、協会会員はじめ関係機関、団体に配布し畜産経営の支援等に資した。

4 地域畜産総合支援体制整備事業（県）**公益**

畜産経営の安定化に資するため、県及び関係機関・団体の協力を得て、畜産経営体に対する支援指導を行った。

(1) 畜産コンサルタント団の設置

区分	総括畜産コンサルタント	畜産コンサルタント	非常勤畜産コンサルタント	フォローアップ指導員
人数（名）	3	4	26	11

(2) 畜産経営体支援指導研究会

畜産経営技術等の支援指導・畜産経営状況調査を効果的に行うための具体的な指導内容・手法等を検討する総合委員会及び専門委員会を下記のとおり開催した。

① 総合委員会：令和3年9月16日

② 専門委員会：令和3年9月16日

(3) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に行うため、経営支援用パソコン・ソナルコンピュータをリースした。

(4) 畜産経営技術の支援指導

畜産経営体等からの要請内容・経営水準・実態等に応じ、経営改善のための効果的な支援指導を次のとおり実施した。

① 個別支援指導

畜産経営体に対する経営診断改善指導・経営管理技術指導・生産技術指導・フォローアップ指導等を下記のとおり実施した。

項目	経営診断 改善指導	経営管理 技術指導	生産技術 指導	フォローアップ 指導	計
戸数(戸)	10 (酪農)			10 (酪農)	20
件数(件)	10	10	10	30	60

(5) 畜産経営関係情報のデータベースの整備

畜産経営体に対する効果的な支援指導を行う目的で、畜産関係情報のホームページによる提供を行った。

5 貸付事業指導等事業 ((公財) 畜産近代化リース協会) その他

畜産近代化リース協会からの畜産機械、施設等の借受者を対象にその効果的利用を促進するため、再貸付団体の協力を得て、19基について確認調査並びに指導を実施した。

1 再貸付団体

No.	再貸付団体名	生産者 数	No.	再貸付団体名	生産者 数
1	全農千葉県本部	1	5	県みるく農協東部支所	2
2	八千代酪農	4	6	県みるく農協南部支所	8
3	千葉酪農協	1		計	19
4	県みるく農協中央支所	3			

2 貸付施設等

No.	貸付施設区分	調査数
1	自給飼料生産利用機械施設	4
2	生乳生産合理化施設	9
3	畜舎環境改善機械施設	6
4	生乳処理流通施設	0
	計	19

6 畜産特別資金等推進指導事業 ((公社) 中央畜産会) 公益

大家畜改善緊急支援資金、大家畜経営維持緊急支援資金、大家畜特別支援資金養豚改善緊急支援資金及び養豚経営維持緊急支援資金借入者の経営改善に資するため、年3回の県支援協議会（本協会事務局）を開催するとともに、現地調査等を実施し、経営改善方策等について検討の上、借入者に対する助言指導を行った。

維持緊急支援 2 経営（養豚 2)

改善緊急支援 2 経営（酪農 1 肉用牛 1)

特別支援資金 1 経営（酪農 1)

7 肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業）((独)農畜産業振興機構)**公益**

肉用牛繁殖基盤の強化を目的とし、地域の中核となる担い手育成のための繁殖雌牛増頭のための奨励金の交付、肉用牛ヘルパー活動推進（削蹄、出荷、除角など）を推進した。

(1) 中核的担い手育成増頭推進

奨励金交付対象戸数：4戸 対象頭数：6頭

増頭奨励金 580,000円（8万円：1頭、10万円：5頭）

(2) 肉用牛ヘルパー活動推進

2カ所（安房・香取）各肉用牛ヘルパー利用組合の飼養管理、削蹄補助、出荷ヘルパー等の利用の推進を図った。

8 畜産経営災害総合対策緊急支援事業（肉用牛経営災害緊急支援対策事業）

((独)農畜産業振興機構)**公益** 【新規】

災害等による停電時における畜産経営体の経営継続のため、家畜の生命維持に要する機械の稼働のための非常用電源の整備等に要する経費について補助し、もって国産牛肉の安定供給を図った。

非常用電源の整備

対象戸数：3戸 整備した非常用電源数：3基

9 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業に係る事業推進業務 **公益**

畜産クラスター協議会に参画する中心的経営体が行う畜産クラスター計画実現のための収益力強化等の取組みについて、本県の窓口として業務を行った。

(1) 機械導入事業 ((公社)中央畜産会)

地域における中心的経営体の収益性の向上等に必要な機械装置の導入を支援する本事業の千葉県の窓口として、事業要望（161件）、参加申請（62件）のとりまとめ等を実施し円滑な事業推進を図った。

また、機械導入状況調査に係る現地調査（5件）等も実施した。

(2) 生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）((一社)全国肉用牛振興基金協会)

輸出の拡大に向けて和牛の増産を推進するため、優良な繁殖雌牛を増頭し、輸出に適した和牛肉の増産を図る取組みに必要な経費を支援する事業の事業要望、参加申請の取りまとめ等を実施し円滑な事業推進を図った。

事業参加戸数：10戸

奨励金交付対象牛：44頭（24.6万円：25頭、17.5万円：19頭）

**10 酪農経営体生産性向上緊急対策事業(畜産ICT事業)及び酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業(楽酪GO事業)((公社)中央畜産会)
公益**

酪農家における労働負担軽減・省力化等の取組みに必要な機械装置の導入(畜産ICT事業)及び導入と一体的な施設の整備(楽酪GO事業)を支援する本事業の本県窓口として、事業の普及、事業推進指導業務を行い、実施計画申請(応援会議3, 機械装置数: 7件21台)の取りまとめ等を行った。

11 肉豚経営安定交付金制度連絡調整等業務 ((独)農畜産業振興機構) 公益

肉豚経営安定交付金制度参加の養豚事業者、養豚関係者に対し、事業の内容・適切な事務処理について周知し、円滑な事業を実施した。

対象: 登録生産者2名、関係者1名、計3名

12 養豚経営安定対策補完事業 ((独)農畜産業振興機構) 公益

養豚経営の安定化を図るため、更なる経営コスト削減及び生産性や能力評価に必要な一代雑種雌豚を導入し、養豚経営の体质強化を図った

4団体 養豚生産者6名、一代雑種雌豚126頭導入

13 畜産経営災害総合対策緊急支援事業(養豚経営災害緊急支援対策事業) ((独)農畜産業振興機構) 公益

災害等による停電時における家畜の生命維持に要する機械の稼働のための非常用電源を整備することにより、養豚経営の体质強化を図った。

非常用電源の整備

対象戸数: 6戸 整備した非常用電源数: 9基

14 家族経営における畜産DX推進事業 ((公社)中央畜産会) 公益

畜産経営における生産性の向上や労働負担の軽減等に向けて、ITやAI(人工知能)技術を活用した、畜産のデジタルトランスフォーメーション(畜産DX)を推進し、畜産DX技術導入の経済的効果等の評価手法を確立し、家族経営における効率的な導入を支援するため、畜産DX技術導入が労働負担軽減や所得向上に与える効果を調査した。

15 畜産・酪農生産力強化対策事業(家畜生産性向上対策事業)

((公社)中央畜産会) 公益

家畜の遺伝的能力を最大限に発揮させるための家畜生産性に係るデータ収集と、生産性向上のためのデータ分析、技術指導の取組みを実施した。

・酪農経営2戸、肉用牛一貫経営1戸、肉用牛肥育経営1戸

II 家畜衛生向上及び環境に関する事業

1 家畜生産農場衛生対策事業（国庫）**公益**

畜産の健全な発展に資するため、牛伝染性リンパ腫の清浄化対策、牛ウイルス性下痢症及び予防接種によるアカバネ病等の発生・流行防止対策を推進し、自主的な家畜防疫意識の向上と家畜の損耗防止を図った。

(1) E B L 感染拡大防止対策

E B L の感染拡大防止を推進するため、抗体検査等に対して助成した。

- ・抗体検査等 582頭 9農場
- ・吸血昆虫の忌避・駆除対策 1件(防虫ネット導入補助)
- ・研修会の開催 (Web会議) 1回

(2) 牛ウイルス性下痢・粘膜病対策

牛ウイルス性下痢・粘膜病の清浄化を推進するため、発生農場等の重点的な検査、本病の持続感染牛のとう汰等に助成した。

- ・検査 7, 562頭 23農場
- ・P I 牛のとう汰推進 4頭 (乳牛3頭、肉牛1頭) 2農場

(3) 疾病流行防止支援対策事業

牛の異常産の発生・流行を防止するため、下記のワクチン接種について助成した。

アカバネ病（单味）	異常産（3種混合）	異常産（4種混合）
3,130頭	5,740頭	3,331頭

2 家畜防疫互助基金支援事業 ((公社) 中央畜産会) **公益**

畜産経営に甚大な影響を及ぼす海外悪性伝染病（口蹄疫、牛肺疫、牛痘、豚熱、アフリカ豚熱の5疾病）の発生に備え、牛及び豚飼養農家による互助基金の造成を支援し、万一の発生に際して同額の補助金（(独) 農畜産業振興機構助成）を加えた互助金を交付し、損害及び経営再建への支援を図る。令和3年度は事業期間（令和3年度～令和5年度までの3か年）の1年目にあたる。

今期（令和3年度）の加入状況

牛			豚		
戸数	頭数	基金造成額	戸数	頭数	基金造成額
447戸	61,329頭	9,168,295円	139戸	580,919頭	77,550,920円

3 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（国庫）**公益**

（牛疾病検査円滑化推進対策事業）

牛海綿状脳症（BSE）検査が必要な96ヶ月齢以上の死亡牛の円滑・適

正な処理を推進するため、死亡牛の発生農場から化製場までの輸送費及び焼却処理経費に対し助成した。

- ・輸送費（134頭）、適正処理費（131頭）

4 馬飼養衛生管理特別対策事業 ((公社) 中央畜産会) **その他**

馬の生産、流通の国際化等に伴い馬インフルエンザ等の侵入、流行の危険性が大きいことから、競走馬以外の馬の獣医療実態調査、飼養衛生管理技術講習会等を行い、馬防疫の意識向上に努めた。

- (1) 馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催 1回

日時：令和3年8月26日(木) 書面開催

- (2) 地域馬獣医療技術基礎調査

乗馬クラブ等の馬飼養者を対象に「馬飼養衛生管理基準に基づく衛生管理区域の設定状況による予防衛生対策等に関する調査」を実施した。

調査対象戸数87戸、回答戸数44戸（51%）から回答が得られた。

5 育成馬等予防接種推進事業 ((公社) 中央畜産会) **その他**

馬飼養の集団化、多様化及び煩雑な移動等の実態を踏まえ競馬場入りゅう前の育成馬等について予防接種の徹底を図るため、下記のワクチン接種に対して助成し、馬防疫の推進に努めた。

3種混合ワクチン			馬インフルエンザワクチン				日本脳炎ワクチン	2種混合ワクチン	計
1歳馬	2歳馬	計	1歳馬	2歳馬	繁殖牝	計	2歳馬	2歳馬	
10頭	19頭	29頭	10頭	19頭	10頭	39頭	15頭	0頭	83頭

6 馬伝染性疾病防疫推進対策事業 ((公社) 中央畜産会) **その他**

地域における自主防疫活動の強化を図るため検討会を開催し、競走馬以外の乗用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種の推進、軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種の推進を図った。

馬インフルエンザワクチン	馬鼻肺炎ワクチン
690頭（乗用馬690頭、小格馬等 - 頭）	2頭（2頭×2回接種）

7 家畜防疫・衛生指導対策事業 ((公社) 中央畜産会) **公益**

家畜伝染病の発生予防、まん延防止等を確実かつ効率的なものとするため、国家防疫措置に併せて、地域における重要な家畜疾病を対象とした防疫演習、慢性感染症対応、馬伝染性貧血防疫等の自衛防疫活動を推進するとともに、家畜衛生の向上と家畜・畜産物の安全性を確保する上で重要なツールである農場HACCP認証に必要な審査員の養成、力量向上、認証取得の導入促進となる推進農場の構築手順の提供等を総合的に実施した。

(1) 地域自衛防疫推進事業

千葉県の自衛防疫の取組を促進するため千葉県畜産協会家畜衛生評議委員会を開催し、地域自衛防疫体制の確認や防疫演習等の計画の検討等を行った。

また、高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の発生時の迅速かつ的確な防疫措置が実施できるよう、防疫演習（机上演習や実地演習）を開催した。

ア. 地域自衛防疫取組促進

- 1) 第1回家畜衛生業務評議委員会議
令和3年6月16日（書面決議） 12名
- 2) 第2回家畜衛生業務評議委員会議
令和4年2月25日（書面決議） 12名

イ. 地域自衛防疫活動推進

- 1) 急性悪性家畜伝染病発生時防疫活動に係るサブリーダー演習
資料配布 46名
- 2) サブステーション設営演習・千葉県急性悪性伝染病防疫演習
千葉市農政センター 137名

(2) 地域疾病対策事業

船橋競馬場競走馬防疫会（事務局：千葉県競馬組合）の要請に基づき、馬伝染性貧血に係る競争用馬の抽出サーベルアンス検査実施に係る獣医師技術費を助成した。 獣医師：3人/日

(3) 地域農場HACCP認証支援事業

農場HACCPの普及促進を図るため、農場HACCP推進農場の実態を調査するとともに、認証に向けて取組む農場に対して技術指導者を派遣し、効果的な指導・支援を行い、認証普及を図った。

- 1) 普及推進協議会等会議の開催
①普及推進協議会：2回、②地域取組促進活動：3回
- 2) 地域農場HACCP認証構築指導
①農場HACCP構築指導に係る意見交換会の開催：2回
②農場HACCP構築指導事業
対象農場：酪農4農場、肉牛16農場、豚21農場、採卵鶏2農場
ブロイラー2農場 計45農場 農場HACCP指導員：18名

8 市町村等自衛防疫活動支援事業（協会単独）**公益**

当協会で実施する家畜衛生業務の円滑かつ的確な推進を図るため、市町村家畜防疫会等の行う自衛防疫活動に対して支援・指導を行った。

- ・活動支援助成金交付先 市町村家畜防疫会 47団体

	R3実績	備考
標準活動費	940,000円	@20,000円×47市町村

事業活動費	153,500 円	牛・豚予防接種の実績配分 単価：牛 10 円、豚 0.5 円
合 計	1,093,500 円	

9 特定疾病損耗防止事業（協会単独）公益

下記疾病に対して予防接種を推進した。

牛伝染性鼻気管炎ワクチン	2,146頭
豚丹毒生ワクチン	3,000頭
日本脳炎・パルボワクチン	226頭
異常産ワクチン（3種混合、4種混合）*	249頭

* 県立農業高校

10 家畜伝染性疾病防疫活動円滑化推進事業（協会単独）その他

口蹄疫や P E D などの家畜伝染性疾病の発生時に、消毒用機器や防疫対応資材を速やかに運搬するための車両を千葉県に貸し出すことで県内の防疫活動を円滑に推進した。

11 生産農場衛生対策緊急強化事業（協会単独）公益

豚熱等の国内発生などにより飼養衛生管理基準の改正・強化に対応するため、飼養衛生管理基準改定の啓発・普及を図るとともに、農場の外国人労働者等への衛生教育研修等を実施した。

(1) 飼養衛生管理基準パンフレット配布（外国人技能実習生用 200 部）

(2) 外国人研修生等を対象とした衛生研修会の開催

旭市：養豚 3 農場、参加者 23 名

（うち通訳：タガログ語 1 名、ベトナム語 1 名）

III 畜産の活性化を進める事業

1 畜産関係団体調整機能強化事業（（公社）中央畜産会）その他

畜種を越えた畜産に携わる女性の集まり「ちば畜産レディースネットワーク」の活動を支援した。

2 畜産フェア（協会単独）公益

第 15 回千葉県畜産フェアについては、新型コロナウイルスの感染が続く中、昨年度に引き続きインターネットを活用して開催した。

千葉県競馬組合並びに関係各位のご協力を得て、「船橋ケイバ×千葉県畜産協会 第 15 回千葉県畜産フェア」、船橋ケイバ第 8 回開催プレゼントキャンペ

ページと題して、WE B上で千葉県産畜産物のPRと消費拡大を実施した。

IV 畜産物の品質向上を図る事業

1 養豚改良対策事業 **その他**

登記登録を含めた業務を通じ本県の豚の改良推進と強化を図った。

(1) 登録事業 (協会単独)

優良種豚改良の基本となる登録を(一社)日本養豚協会登録規定に基づき実施した。

種豚登録 333頭、子豚登記 233頭、肉豚証明 997頭、移動証明 7

(2) 優良種豚場認定事業 ((一社)日本養豚協会)

農家戸数の減少、規模拡大に伴い種豚の供給を担うブリーダーの役割は限定されてきている状況にある。

厳しい生産現場の状況を考えると、より能力(繁殖性・産肉性)の高い種豚の改良・確保が最も重要であることから、種豚の生産基盤強化と登録事業の推進を図るため(一社)日本養豚協会認定規定に基づく認定により育成強化を図った。

遺伝資源保存指定種豚場 3場

(3) 原種豚認定事業 (協会単独)

(一社)日本養豚協会指定種豚場を対象とした事業として、本県純粋種豚の改良、資源確保のため本事業により助成・強化推進を図った。

認定農場に対する助成 3農場

血統能力の証明に対する助成

種豚登録 265頭・子豚登記 62頭

2 千葉県産オリジナル豚肉生産体制評価事業 (県) **その他**

飼養管理に優れたL4導入農場におけるL4由来の一代雑種(L4W)及び肉豚(L4WD)の繁殖成績及び産肉成績について、農場間の成績比較や一般豚と系統豚の成績比較を実施し、飼養改善と成績の向上を図った。

また、普段生産者が把握しづらい出荷肉豚の肉質及び官能検査を実施した。

調査農場 5場 L13腹 LW15腹

V 畜産経営の安定化を図る事業

1 肉用子牛生産者補給金制度 ((独)農畜産業振興機構) 公益

(1) 肉用子牛生産者補給金交付に係る業務

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、生産者補給金の交付等の事業を通じ、肉用子牛生産の安定と経営の健全な発展に努めた。

① 令和3年度生産者補給金交付契約締結者 112人

② 事務委託先契約締結数 11件

1) 契約肉用子牛の個体登録

(単位:頭)

区分 品種	令和3年 1月1日～ 3月31日	令和3年 4月1日～ 6月30日	令和3年 7月1日～ 9月30日	令和3年 10月1日～ 12月31日	計
黒毛和種	222	252	245	247	966
その他肉専	3	2	0	0	5
乳用種	625	525	458	285	1,893
交雑種	2,251	2,362	2,267	1,722	8,602
計	3,101	3,141	2,970	2,254	11,466

2) 生産者積立金の積立額

(単位:円)

品種	契約 頭数	積立 単価	積立額	負担区分		
				農畜産業 振興機構	千葉県	生産者
黒毛和種	966	1,600	1,545,600	772,800	386,400	386,400
その他肉専	5	18,800	94,000	47,000	23,500	23,500
乳用種	1,893	6,800	12,872,400	6,436,200	3,218,100	3,218,100
交雑種	8,602	3,200	27,526,400	13,763,200	6,881,600	6,881,600
計	11,466	—	42,038,400	21,019,200	10,509,600	10,509,600

3) 生産者補給金交付状況

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(単位:円、頭)

品種区分	交付対象		奨励金交付額	
	人数	頭数	単価	交付額
その他肉専用種	5	7	22,700	158,900
合計	5	7	—	158,900

2 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業

((独)農畜産業振興機構) 公益

(1) 制度運営適正化推進事業

肉用子牛生産者補給金制度にかかる業務の適正な実施を図るため、全国統一電算処理システムによる業務の充実と事務委託先との個体登録個体識別及び販売・保留確認等の業務の委託により適正かつ円滑な実施に努めた。

(2) 指定協会運営体制支援事業

生産者補給金制度の推進のための実施体制の確立と運営基盤の安定化のために、財政的支援を得て、協会運営の財政的基盤の強化を図り、肉用子牛生産者補給金制度の適正な運営に努めた。

3 優良肉用子牛生産推進緊急対策事業 ((独)農畜産業振興機構) 公益

新型コロナウイルス感染症の影響による枝肉価格の低下に伴い、子牛価格が急落しており、肉用子牛生産者の生産意欲の低下による肉用牛生産基盤の弱体化が懸念される状況にある。

このような中、肉用子牛生産者の生産意欲を高め、肉用子牛の生産基盤の維持・強化を図るため、畜舎の環境改善や疾病の防止等の経営改善に取り組む肉用子牛生産者に対し、全国の家畜市場における肉用子牛の取引価格の平均価格が発動基準を下回った場合に、肉用子牛の飼養頭数を維持することを目的として、奨励金交付事務を行った。

交付対象月：令和3年4月～令和3年5月

交付対象者：発動なし

4 肉用牛肥育経営安定交付金制度 ((独)農畜産業振興機構) 公益

肉用牛肥育経営安定交付金制度は、畜産経営の安定に関する法律に基づく法律制度であり、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に肉用牛の生産者に対し、その差額の9割を交付金として交付することにより、肉用牛の生産者の経営に及ぼす影響を緩和することを目的としている。当協会では、(独)農畜産業振興機構の委託を受け、交付金の交付業務等を行うことで肉用牛経営の安定に努めた。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響による枝肉価格の急激かつ大幅な下落に伴い、肥育農家の経営状況が悪化していることから、肥育経営の資金繰りを支援するため、生産者負担金の納付猶予が行われた。(契約生産者が飼養する契約肉用牛のうち、令和2年4月末から令和3年5月末までに負担金の納付期限を迎える契約肉用牛について負担金の納付を積立金から支払われる額(1/4分)が積立金から支払われるまで猶予。)

[交付金交付状況] (令和3年4月期～令和4年3月期)

品種区分	交付対象		交付金の額 (円) (4/4)	交付金として 支払う額 (3/4)	積立金として 支払われる額 (1/4)
	人数 (延べ数) (人)	頭数 (頭)			
肉専用種	92	519	17,552,779	13,164,540	4,388,239
交雑種	267	4,528	133,527,517	100,145,533	33,381,984
乳用種	145	2,842	99,537,471	74,653,048	24,884,423
合 計	504	7,889	250,617,767	187,963,121	62,654,646

5 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業（肥育生産支援事業）

((公社) 中央畜産会) **公益** 【令和2年度からの継続事業】

新型コロナウイルス感染症による肥育農家の経営悪化に対応するため、経営改善に取り組む肥育農家に対し、販売頭数に応じて奨励金を交付する。当協会では、中央畜産会の委託を受け、交付金の交付業務等を行うことで肉用牛経営の安定に努めた。

(1) 対象となる肥育牛の主な要件

- ①肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）の対象牛のほか、繁殖雌牛や搾乳牛も、3か月以上再肥育されたものが対象
- ②令和2年4月7日～令和3年3月31日に販売した牛が対象
- ※牛マルキン対象牛の令和3年2～3月販売分、及び牛マルキン以外の対象牛の令和2年4～9月販売分（未交付分）・令和2年10月～令和3年3月販売分について、令和3年度事業として持ち越し交付された。

(2) 奨励金の交付状況

- ①事業参加者数：139戸
- ②奨励金の交付対象頭数：4,078頭
内、牛マルキン登録頭数：3,642頭
- ③奨励金交付金額：81,560,000円

6 肥育牛経営改善等緊急対策事業（肥育牛経営等緊急支援特別対策事業）

((公社) 中央畜産会) **公益** 【令和3年度のみの単年度事業】

新型コロナウイルス感染症による肥育農家の経営悪化に対応するため、経

當改善に取り組む肥育農家に対し、販売頭数に応じて奨励金を交付する。当協会では、中央畜産会の委託を受け、交付金の交付業務等を行うことで肉用牛経営の安定に努めた。

(1) 対象となる肥育牛の主な要件

- ①肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）の対象牛のほか、繁殖雌牛や搾乳牛も、3か月以上再肥育されたものが対象
 - ②令和3年4月1日～令和3年5月31日に販売した牛が対象
- ※牛マルキン制度の負担金の納付猶予期間と連動し令和3年5月末までに販売された牛が対象となっている。

(2) 奨励金の交付状況

- ①事業参加者数：133戸
- ②奨励金の交付対象頭数：2,724頭
うち、牛マルキン登録頭数：2,573頭
- ③奨励金交付金額：54,480,000円

7 千葉県肉用牛肥育経営安定対策補完事業（協会単独）公益

肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）は、畜産経営の安定に関する法律（昭和36年法律第183号）に基づく法律制度であり、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に、肉用牛の生産者に対し、その差額の9割を交付金として交付することにより、肉用牛の生産者の経営に及ぼす影響を緩和することを目的としている。

しかし、当該制度の実施にあたり、生産者や書類手続き上の諸事情により生産者が制度上補填されない場合がある。この場合、本事業により牛マルキン補填金相当額を支援することで、肉用牛肥育経営の安定を図った。

[補填金交付状況]（令和2年12月期～令和4年3月期）

品種区分	交付対象		交付金の額（円）
	人数（延べ数）（人）	頭数（頭）	
肉専用種	0	0	0
交雑種	8	113	2,701,093
乳用種	10	60	1,457,504
合計	18	173	4,158,597

8 千葉県肉豚経営安定対策事業（県）公益

農畜産業振興機構が実施する肉豚経営安定交付金制度の負担金の一部を助成し、養豚経営の安定と肉豚の安定的な生産確保に努めた。

養豚事業者数159名 補助単価1頭当たり40円

VI 特別事業

1 種豚改良対策基金（協会単独）**その他**

指定種豚場を対象とした原種豚農場の認定による本県純粋種豚の改良の促進と品質の高い豚肉を効率よく生産するための各種事業推進を図るためこの基金を有効に活用した。

VII その他

1 千葉県畜産物消費拡大推進協議会関連事業

安全・安心等消費者ニーズに応える県産物の銘柄等を推進し「千葉ブランド」を県内・首都圏に向け千産千消・千産全消の確立を目指している生産者団体が船橋市船橋競馬場（ふれあい広場）において千葉県畜産フェアを計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりインターネットを活用した形で開催した。

「船橋ケイバ×千葉県畜産協会 第15回千葉県畜産フェア」、船橋ケイバ第8回開催プレゼントキャンペーンと題して、WEB上で千葉県産畜産物のPRと消費拡大を図った。

また、他団体が開催したイベント等に積極的に参加しPR活動を実施した。

2 千葉県養蜂協会関連事業

(1) 養蜂振興推進事業（県委託事業）

養蜂振興法に基づき、県外からの転飼者の調整を実施した。

また、蜜源植生状況調査、花粉交配実態調査、蜂蜜等生産量調査並びに寄生虫の発生状況調査を実施した。

(2) ポリネーション推進事業

県果樹連等と交渉し、梨花粉交配用蜜蜂を貸し出した。

(3) 販売対策事業

千葉県畜産賞「三里塚賞（準重賞）」の副賞として蜂蜜を提供した。

(4) 蜜源増殖対策事業

蜜源植物の苗木（椿、桜等）を共同購入し会員に配布、植栽を行った。

(5) 防疫対策事業

ダニ駆除薬等（アピスタン、アピバール）を共同購入し、会員に配布した。

(6) 養蜂飼料等斡旋物資対策事業

一般社団法人日本養蜂協会の斡旋による輸入免税砂糖等の共同購入を行い、会員に配布した。

3 馬事畜産振興推進事業

- (1) 令和3年8月19日 令和3年度千葉県馬事畜産振興協議会総会を書面決議により開催し、令和2年度事業報告及び収支決算、令和3年度計画及び収支予算について審議・決議した。
- (2) 千葉県競馬組合が実施する「ふれあい広場」へ参加し、馬事畜産振興コーナーを設置し、パンフレット等の配布を行う計画をしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。代わりに開催された千葉県畜産フェアWEBキャンペーンにてパンフレット等の提供、配布を行った。
- (3) 令和3年12月2日船橋競馬場において、千葉県馬事畜産振興協議会として冠レース「三里塚賞（準重賞）」を実施し、優勝馬関係者に対して賞状並びに副賞を授与した。

4 ナイスポークチバ推進協議会関連事業

生産者自らの資金拠出による活動の柱である、県産（国産）豚肉の消費拡大、養豚経営安定強化のための政策要請、後継者育成等の活動により、養豚経営の安定強化と産業振興を図るため、協会として生産者の活動を支援するための事務を取り扱った。

[活動と実績]

新型コロナ感染拡大に伴い、活動が制約される中での実施事業

- (1) ポスター作成配布による組織強化と会員加入推進
- (2) 生産性向上のための関連行事への協賛
- (3) サポーター会員制度による消費者交流により、県産（国産）豚肉に関する情報提供及びPRによる消費拡大推進
- (4) 県に対し豚熱（CSF）防疫ワクチン料金の生産者負担軽減要請
- (5) 国に対し豚熱（CSF）防疫ワクチン接種方法等に関する特例要請
- (6) 関東ブロックで決議した豚熱対策について国及び中央団体へ要請
- (7) 養豚経営安定対策事業（全国肉豚）の業務委託に伴う農家指導
- (8) 登録事業委託団体として豚の改良推進
- (9) (一社)日本養豚協会（JPPA）との連携による活動
 - ①自民党衆参国會議員で創る養豚農業振興議員連盟への要請活動
 - ②豚熱（CSF）対策のための情報の共有と対策に関する要請活動
 - ③（公社）日本食肉格付協会へ豚枝肉格付規格改正について要請
 - ④国産豚肉消費拡大推進のためSNS（インスタグラム）による参加
 - ⑤アフリカ豚熱（ASF）に関する情報の共有と水際対策要請

5 千葉県自家検定推進協議会関連事業

原種豚の確保と能力の高い種豚の改良を担う生産者に対し、協会の執行事業関連事務を取り扱った。

6 ちば畜産レディースネットワーク関連事業

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワークとして、平成19年3月に設立、会員は女性経営者をはじめ県関係機関・団体女性職員等で、会員相互の情報交換・研修・消費者交流等の活動への支援等、事務を取り扱った。

7 NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター関連事業

畜産に関わる生産者等への支援や畜産振興に向けた消費者等との交流を図るために設立したNPO法人の会員数は団体・個人会員及び賛助会員を含め80名である。

畜産協会が行う下記の畜産支援事業や人材情報システム運営及び団体事務受託、消費者交流・動物情操教育事業について、その一部をNPO法人に委託、または協力を得て実施した。

(1) 畜産経営支援事業

- ①畜産情報収集・提供事業
- ②地域農場HACC認証支援事業
- ③馬事畜産振興推進事業
- ④野生獣衛生体制整備推進確立対策事業
- ⑤死亡牛等の受入及び保管等補助業務（千葉県公募事業）
- ⑥生産農場衛生対策緊急強化事業（千葉県畜産協会 委託事業）
- ⑦畜産経営における排水実態調査（中央畜産会 委託事業） 3養豚場の浄化槽調査
- ⑧調査・試験研究事業

中央畜産会からの依頼で令和3年度未利用資源活用対策事業に係るほ場副産物発生状況調査に協力した。

落花生、水稻、キャベツ、山芋、サトイモ畑等での残渣処理の状況について12農場の調査を請負、実施した。

(2) 人材情報システム運営及び団体事務受託

- ①県立農業大学校畜産関係非常勤講師を派遣した。
- ②団体が実施する台風被害補助事業に係る事務処理業務のため、会員を派遣した。

(3) 消費者交流・動物情操教育事業

- ①本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、毎年船橋競馬場で開催している千葉県畜産協会主催の千葉県畜産フェアが中止になった。
- ②千葉県馬事畜産振興協議会の冠レースなどの事業活動に参加した。

8 チバザビーフ協議会関連事業

(1) 県産牛肉ブランド力向上対策事業（県補助事業）

県産牛肉のブランド力向上に不可欠な出荷頭数の拡大と高品質化及び銘柄牛肉の知名度向上に努めた。

① 推進活動

総会（令和3年7月、書面開催）及び理事会・専門部会（6月、11月、計2回）を開催した。

② 広報活動

- ・8029ナイター（6月、ZOZOマリンスタジアム）協賛
- ・ゆめの収穫祭（10月、成田ゆめ牧場）協賛・出店
- ・千葉県産のお肉プレゼントキャンペーン（10～11月、千葉県内のイオンモール・マックスバリュ）協賛
- ・ユニオンアウトドアフェスティバル（11月、ユニオンベース（印西市））協賛・協力
- ・2021ヤングジョッキーシリーズ（12月、中山競馬場）協賛
- ・全国穴掘り大会（2月、成田ゆめ牧場）協賛
- ※ 大会自体は中止、代替企画に協賛
- ・その他 各銘柄でのチバザビーフPR活動支援、「農産物を買 Walker」（角川アスキー研究所）へのPR記事掲載、イベント等でのPR大使の出演など

（2）肥育技術向上対策

① 枝肉品評会の開催

千葉県肉牛生産者の研鑽の機会を創出し、飼養管理技術の向上を図るとともに、食肉流通業者等へ県産牛肉の知名度向上を図るため、集荷量日本一の東京中央卸売市場において枝肉共励会・研究会を開催した。

枝肉共励会 年1回（令和4年2月）

〈出品頭数〉 80頭（黒毛和種 49頭、交雑種31頭）

枝肉研究会 年2回（令和3年6月、令和3年10月）

〈出品頭数〉 6月：60頭（黒毛和種 30頭、交雑種 30頭）

10月：60頭（黒毛和種 32頭、交雑種 28頭）

② 肥育技術のより一層の向上を目指し、枝肉成績分析及び血液検査分析（代謝プロファイルテスト）を実施した。

【枝肉成績分析】

分析期間：令和3年1月～12月

分析戸数：59戸

分析頭数：黒毛和種・去勢 1, 775頭

黒毛和種・雌 518頭

交雑種・去勢 2, 817頭

交雑種・雌 1, 930頭 合計 7, 040頭

【血液検査分析】

分析戸数：17戸（希望者には年2回実施）

分析頭数：黒毛和種・去勢 79頭

黒毛和種・雌 21頭

交雑種・去勢 119頭

交雑種・雌 17頭 合計 236頭

9 チバザポーク販売推進協議会関連事業

千葉県の銘柄豚肉出荷団体が連携しチバザポークの知名度向上と販売促進に努めた。

主なPR活動

- ・チバザポークトレイン
- ・チバザポークフェア（そごう千葉店）
- ・SDGs ウィーク（そごう千葉店）
- ・千葉県畜産フェア【WEB開催】
- ・いい歯の日プレゼントキャンペーン（県内イオンリテール・マックスバリュ）
- ・絵手紙コンクール（酪農のさと）